

遊び



(社) 日本測量協会 常務理事
尾野 安次
(和歌山航測株式会社 代表取締役会長)

仕事と遊びは両翼に位置している。片方が少ないと、バランスがとれなくなる。精神的にも肉体的にも社会的にも遊びは仕事と同様大事であると考えてる。

釣り

先日久しぶりに和歌山県の白浜温泉に釣りに出掛けた。

白浜は私の生れ故郷であり、18歳迄過ごしたところです。今でも時々里帰りをします。しかし両親も兄弟も今はなく、親戚はおりますが、もっぱら故郷では、会員制のホテルに泊まっております。私の子供の頃、今から60年位前は、白浜温泉は新婚旅行のメッカであり、どこを向いても新婚ばかりでとても華やかでした。その後、新婚さんは宮崎が主流になり、高度成長と共に海外旅行となりました。

さて釣りですが、私の釣りは子供の頃からガシラ（関東ではカサゴ）狙いです。なぜガシラかと言いますと、まず一つは、割と高級魚でおいしいこと。二つ目はガシラの居るところにエサをたらずと、大きな口で間髪入れずにパクと食いつくこと。勝負が早い。多くの釣り人は魚々との微妙な駆け引きでタイミングを図り、垂れた釣り糸の先に魚が来るまでじっと待っている。魚がいるかわからないのだからである。それはそれで楽しいのかも知れませんが、私の性には合わない。

ガシラはいればすぐ食いつくし、いなければ食わない。はっきりしているから面白い。ガシラは岩場におります。岩場の影に潜んでいて、小魚を狙っている。潮は大潮の時が一番良い。すなわ

ち、潮が引いた時に現れる岩場が釣り場である。白浜には満潮の時は海の中で、大潮の時に現れる岩場がたくさんあり、どこで釣れるかは子供の頃から知り尽くしている。

潮が岩場を洗い岩の割れ目に流れ込む。その近くに潜んでいるのである。割れ目にもいるので、一つの釣り方として穴釣りと言って、竿の先に10cm位のテグスと針にエサを付けて割れ目や岩の下に差し込むと飛びついてくる。エサはきびなど等で光ものが良い。同じところで何匹も釣れる時がある。引きが強いし、釣れた時の感触は何とも言えない。わくわくしながら楽しめる。皆様も試してはいかがかな。

囲碁

高校生の時に友達から初めて囲碁を教えてもらった。その後、就職先で囲碁が盛んで、私も一時とりこになり、少し自信が出てきた。

当時職場の大先輩で世界で初めて航空三角測量を開発し実践した上谷博士が囲碁も強かった。上谷さんは京大出身で京都の名家の生まれとのこと、碁はプロに教えてもらったそうである。当時アマチュア四段、今だと甘いから六段位だと思う。私は特に目をかけてもらい、酒と碁を教えてもらった。当時、上谷さんと私が碁を（私が3子位置いた）打つと、回りに好きな人達が3～4人位は取り囲んで、見物したものである。ある時いつものように打っていると、上谷さんが、「尾野マッタ」と言うのである。「マッタとはこれいかに」と言うと、少し待ってくれ。今から酒を飲んでくると言って近くの酒屋に行き、立ち飲みした

のであろう。すぐ戻ってきて「よし落ち着いた。続きをやろう。」てな具合で、少しアルコール依存かなと思うのであった。

時が経ち、現在私も70になった。時々パソコン通信の囲碁指導対局でプロの先生と打つが、少しアルコールを入れた方が頭がさえてくるような気がする時がある。私も若干アルコール依存かなと。上谷先生は30年余り前に亡くなられたが、「尾野、囲碁は人生の縮図だ」と常に言っていた。囲碁では同じ碁は決して出来ない。一局一局違うのである。打ち手の性格も表れる。又、途中失敗した場合、取り返しのきく場合と、取り返せない場合がある。慎重の上にも大胆さが必要であり、やきもちもいけない。弱い石を攻めるとその弱い石が強くなる。又、優勢な時、守りに入るといけないし、我慢するのも必要である。ただ、こんなことを思いながら、碁を打っても面白くない。たくさんの相手の石を取って、スカッと勝ちたいものである。どうせアマチュアなのだから。



ゴルフ

大空のもとで、芝生の上で運動できるのはゴルフである。健康に一番良いと思う。

ゴルフは、昔は接待に使ったし、協会員同士の親睦にも大いに役立った。

面白い話もたくさんある。ある会社の支店長クラスが、客を接待した。お互いに白熱してきた時、グリーン上で接待している方が、接待されて

いる人の顔色を伺いながら、グリーン上でボールがカップの30cm位についていたのを、わざとグリーンの外へとパターをした。接待されている方は当然、馬鹿にするなど言いそうであるが、ニコニコと大いに喜んだそうである。お互いのなんとも言えない呼吸の良さがあっての出来事だと感心します。

また別の話であるが、会社の上司が6インチだと言ってOB杭の外から中に入れたと、部下が上司に向かって文句を言っている。上司は否定しながらも平然としている。これもあうん上下の呼吸である。

又、業界の親睦ゴルフで、ある営業マンがドライバーを思い切り振ったところ、ボールはそのまま、ドライバーが山の中に飛び込んだ。同業他社の営業マンの手前、ドライバーを捨てると拾いに行かなかった。もったいない話である。

ゴルフも年をとると飛ばなくなってくる。こんなはずではないと思うから、余計力が入り悪循環である。寄せやパターも感覚が微妙に鈍感になり、思ったところへ行かなくなる。自分より年の若い人が段々羨ましくなってくる。

年寄りとして、少しは悟りを開いたゴルフにしないとゴルフが憂鬱になってくるのではと思うこの頃である。

その他に

子供のころはチャンバラをやり、三角ベースで野球をやった。高校生でラグビーを3年間、それから就職して航測図化機を動かすのに、交替制で3時間の休憩があり、毎日麻雀をやった。

子供が小学生の時には硬式少年野球で球団代表として、子供と共に頑張った。酒は生涯のつれで、酒は涙かため息かである。

先に書いた、釣り、囲碁、ゴルフと何をやっても下手の横好きである。しかし思い入れだけは負けない。人生は苦もあり楽しみもありである。何事もやることに意義がある。